

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課 地域学校連携担当
〒020-0034 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-6173
FAX 019-629-6179
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和4年6月30日発行 第19号

6/22 県北教育事務所管内 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

着実にコミュニティ・スクールの導入が進んでいる県北教育事務所管内では、以下の2点をテーマとして今回のフォーラムを開催しました。

- ① 「地域の実態に合わせた新しい学校の仕組みづくり」
- ② 「持続可能な取組について考える」



【実践発表より】

軽米町立軽米小学校の荒川守副校長先生より「軽米町立軽米小学校のコミュニティ・スクールの取組について」と題して、導入2年目で見てきた成果と課題について発表頂きました。



荒川副校長先生より

- ・コミュニティ・スクールを導入したことで「地域とともにある学校づくり」の実現に近づいている。
- ・地域学校協働活動を充実させるために、地域の方と関わりを増やし、学習に取り組む価値を共有することが大切。
- ・今後は、子供たちが地域への思いをキャリアパスポートに記録し、それを学校運営協議会で共有するしくみを検討している。

【講演より】

元文部科学省 CS マイスター、秋田県生涯学習センター社会教育主事の皆川雅仁氏から多くの実践に基づいたお話をいただきました。

皆川氏より

- ・学校運営協議会とは別に、多くの当事者が集まる機会を設定し「熟議」を行うことで、学校運営協議会の不足分を補うことができる。
- ・学校運営協議会で話題になったことをテーマに「熟議」を行うと、より多くの考えや意見を集めることができる。
- ・「熟議」で出された意見が、学校運営の基本方針に反映されるようになると、学校（地域）に変化がみられる。



【参加者の感想】

- ・CSを形ではなく、実で考えなければならぬと実感した。「地域とともにある」ということの本当の意味は、地域の方の本音を聞くことであり、そのための「熟議」の重要性を痛感した。
- ・中学校区で一つの学校運営協議会にすることのメリット、教育活動への影響を学ぶことができた。
- ・CSの評価は数値ではなく、具体的変容が大切であるということに共感した。

本通信は下記ホームページに掲載しています。(※ダウンロード可能)

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。